

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

(1) 函館駅前・大門地区における立地適正化計画の推進について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、6月1日付で資料が配付されているので、説明を受けるため理事者の出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ 理事者の入室を求める。

（都市建設部 入室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ それでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、着席したまま説明をお願いします。

○都市建設部長（佐賀井 学）

- ・ 資料説明：函館駅前・大門地区における立地適正化計画について

（令和3年6月1日付都市建設部調製）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりだが、ただいまの説明について、各委員から何か発言あるか。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 一点だけお聞きしたいのだが、②の事業内容の2つの目の○人口密度を維持する居住誘導策、「若年層を中心とした「居住誘導・定住促進策の実施」」というものが載っている。これは都市建設部の所管として載っているが、経済部でも中心市街地の活性化として、まさに駅前地区は中心市街地になるわけだが、経済部でも居住誘導をやっていると思うが、そこら辺の整合性や連携はどのように進めていくのかお聞きする。

○都市計画課長（宿村 裕史）

- ・ 居住誘導施策については、今、経済部のほうで考えられている施策がどのようなものか判断できないが、都市建設部のほうではこれまでもヤングファミリー住まいりんぐ支援事業や空き家の解体に関する補助事業をやってきている。今回改めて居住誘導施策については、住宅の建設や引っ越しを考える際に駅前・大門地区が優位になるようなインセンティブを与える施策を検討してまいりたいと考えており、内容については、年内に方向性を取りまとめてまいりたいと考えている。

○工藤 篤委員

- ・ 斉藤委員もおっしゃっていたが、中心市街地活性化の事業との絡みで経済部でも進めているが、その辺の連携、打ち合わせは行われているのか。

○都市計画課長（宿村 裕史）

- ・ 中心市街地活性化基本計画では、「市民生活と歴史・文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくり」を基本コンセプトに様々な取組が進められてきた。今回の事業についても中心市街地活性化基本計画の基本コンセプトや方針を踏襲した形で進めているので、経済部と連携を取りながら進めている。

○工藤 篤委員

- ・ 事業内容の生活サービス機能の維持・増進策の中で「市街地再開発事業で整備されるビル内に「賑わいや交流を創出するための新たな公共施設の整備」と書かれている。まさしく中心市街地の関係についても同じような部分があるので、合致する部分があるとする2分の1の国費の補助が出るのかと思うが、そういう理解でいいか。

○都市計画課長（宿村 裕史）

- ・ 今回の新たな公共施設の整備については、工藤委員がおっしゃるとおり、5月13日に開催された経済建設常任委員会委員協議会で経済部のほうから説明があった施設となる。市民、観光客、ビジネス客など多くの人が世代や性別を超えて集い、交流できる施設を想定しており、具体的には本町シェスタハコダテに設置しているGスクエアや亀田交流プラザのような施設をイメージしていると聞いている。内容については、年内に公共施設の整備の方向性を示すということで聞いている。

○工藤 篤委員

- ・ そのように聞いているということだが、その部分は今御説明があったものに該当するのかどうか。そしてそれが2分の1の補助ということで理解していいのか、もう一度教えていただきたい。

○都市計画課長（宿村 裕史）

- ・ そのとおりだ。

○紺谷 克孝委員

- ・ 今、説明があった中で市民はどのように関わりがあるのか。この周辺に住んでいる市民もたくさんいるわけだ。そういう人たちや函館市民一般の意見や注文をどう受け止めていくのかは、どのように考えているのか。

○都市計画課長（宿村 裕史）

- ・ このたびの取組については、平成30年3月に策定した函館市立地適正化計画を実現するために実施する事業であり、事業計画は国の補助事業を活用するために国から策定を求められているものだ。基となる立地適正化計画については、策定時にパブリックコメントを実施し、広く市民の皆様方から御意見を伺っていることから、このたび策定する事業計画については、改めてパブリックコメントを実施しないものだ。しかしながら、紺谷委員がおっしゃるとおり地域の皆様からの御意見も必要であり、このたびの事業については地域の皆様の生活に直結するような事業もあるので、関係町会や地元商店街、振興組合などの御意見を伺う機会は設けているところだ。

○紺谷 克孝委員

- ・ 意見を聞くという程度ではなく、やはり自分たちのまちは自分たちでつくるんだということで、市民の意見をよく聞いて、その上で計画を立てていくということが基本かと思う。福祉関係だとまちづくりの委員会を設定して、公募に基づいた協議会も設定してやっているが、まちづくりは非常に遅れているかと思う。専門家もいるだろうが、一般の市民もいる。市民中心でどういうまちをつく

っていくかということは、単に聞きおく程度やパブリックコメントをやるという程度ではなく、市民自らがまちづくりに携わっていく。役所も含めてやっていくという方向をぜひ目指してほしいと要望しておきたい。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言あるか。（なし）
- ・ 理事者にはご退出願う。

（都市建設部 退室）

- ・ その他、本件について、各委員から何か発言はあるか。（なし）
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 各委員から何か発言あるか。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 先ほど少し紺谷委員から出たが、経済部所管の駅前東地区市街地再開発事業について、5月13日に経済建設常任委員会委員協議会があったが、今回委員が新しく変わった。方向性として12月くらいに出すという話だが、12月に出されてからその話を聞くというのではなく、12月前に少なくとも委員会ではどのような検討状況になっているか。公共施設について、先ほどの工藤委員への答弁ではGスクエアや亀田交流プラザのようなものを考えているという話らしいが、果たしてそれが本当にいいのかどうか、私はそこも疑問に思うので、何とか12月前にはその辺りについて委員会をきちんと開いていただきたいということをお願いしたいと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 今回の計画についても12月までにやるということであり、ボー二跡地も12月までに策定ということなので、併せて経済建設常任委員会でも注視しながら、タイミングも見ながらやっていきたいと思うので、皆さんからも御意見をいただけたらと思う。
- ・ 他に発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前11時42分散会